

【榎本館長からのメッセージ】

今年はや暖冬で、12月にはヒマワリが狂い咲き、梅や桜が芽吹き、葉の花が早くも咲き乱れと、あちらこちらで異常ともいえる花の動きがありました。突然の寒波により、今度は一気に底冷えのする寒さに・・・各地では大雪に見舞われるなど、冬への早変わり、花や木や人はびっくり！調子を崩し易くなるのが心配です。しかし、寒いときは空気が澄んで遠くまで見渡せるので、山登りやハイキングを愛好される方は最高に良い季節かもしれませんね。いや、冬はやっぱり暖かい所でゆっくりするに限るという方は、近くの癒し場「夢の島熱帯植物館」へ足をお運びください。1月から2月の植物館は、「熱帯豆まき」、「カカオから作るチョコレート」、「プチチョコプレゼント」など催しがいっぱい。また、この時期の「夢の島名物」と言えば「夢の島ラン大賞!!」。昨年は約 800 作品が応募展示されましたが今年は何のくらい集まるかな。他にも楽しみ盛りだくさんの熱帯植物館へお越し下さい。お待ちしております 館長



▲ユーカリ（フトモモ科）

また、「ユーカリ」と聞くとコアラが食べる姿が思い浮かびませんか？ 800種を超えるといわれるユーカリの品種のうち、実際にコアラが食するのは12種類程度とされています。左の写真のユーカリは通称「リバー・レッド・ガム」と呼ばれ、コアラが食する品種です。しかし、彼らにも好みがあるようで、個体によってこの葉を食べない者もいるそうです。偏食家ですね。

ユーカリは精油をアロマオイルとして使用すると、免疫機能の向上や呼吸器疾患の改善、殺菌作用が期待できます。材木は火つきが良いうえ燃焼時間が長く、仄かな香りと防虫効果も得られるため、オーストラリアの原住民アボリジニは薪として利用しました。

温室で見られる熱帯植物の紹介（植物館植栽担当：横平）

大温室ドームには、小笠原諸島にしかない植物（固有種）を多数展示しています。それらは、花が咲いても華やかなものがあまり多くありません。その中でもシマギョクシンカは、この時期に少しだけ見応えのある花を咲かせます。

高さ1.5～2メートルくらいの常緑低木で、現地では比較的明るく乾燥しない林内などで見られます。九州南部から沖縄諸島、台湾の亜熱帯に分布しているギョクシンカと近縁であることから、シマギョクシンカと名付けられ、漢字では「島玉心花」と書きます。白い小花が50個くらい丸く集まって咲く様子を、「玉」に見立てたことに由来しているようです。この他に現地では、「アオキ」という名でも呼ばれています。近縁であるギョクシンカよりも花の一つ一つがやや大きいので、枝先に集まってつく葉とともに見るとまるでブーケを思わせます。また花の香りは、独特なものです。昔嗅いだ懐かしい白粉のようで良い香りという人もいますが、それほどでもないという人もいます。

固有種の中でも目立つこの花なら、本州から遥か 1000 キロメートルも離れた小笠原を感じていただきやすいと思います。



◀ シマギョクシンカ (アカネ科)

◀ 小花のアップ

今月の花と実



▲メガスケパスマ・エリトロチラムス



▲スターフルーツ



▲ヒスイカズラ

♪ この時期の人気者 ♪

一年で一番寒い2月。大温室は屋外の寒さを吹き飛ばすほど、鮮やかな色のオンパレードです。特に注目は、毎年春まで開花する「ヒスイカズラ」。ヒスイの勾玉のようなツボミが鈴生りにつく豪華さと、その神秘的な色合いに思わずため息が出ます。モンステラやガジュマルが空中に根を伸ばし、頭上でココヤシの実が結実中。小海老草も元気に開花中です。

【サーベス券】団体不可
コーヒー 1杯無料
2/1～2/28